

安心して住みよい町に！

議会だより

からうら

大きく
な一れ!

No.59

2012.4.30発行

.....
定住、交流の町をめざし—②

あなたの声を議会に！

モニター決まる—⑬
.....

24年度予算を議決

勝浦中学校改築に10億円

定住、交流の町をめざし

3月
定例会

企画総務課、産業交流課を新設！

3月定例会は7日から16日まで開かれ、23年度の補正予算、条例の改正9件、24年度当初予算、町道認定1件が提案され可決しました。また、追加議案として議員提出議案1件、監査委員、副町長の選任同意、選挙管理委員会委員の選挙などが提案され可決しました。一般質問には9議員が、町の政策などを問いました。

議案に対する主な質疑

▼物産販売特別会計補正予算

国清

期待された道の駅「ひなの里かつうら」がオープンして1年、物産販売の特別会計が535万円の大減額(40%)が提案されたが、その要因と課題は何なのか。

副町長

販売スペースが狭く、入込み客数が少なかった。今後は商品開発に力を入れたい。

▼24年度一般会計予算

節

国会で国家公務員の給与削減法案が成立したが、町職員の給与はどうするのか。

また、ごみ分別ステーションの予算200万円が組まれているが、22〜23年度とも実績がない。もっと積極的に推進すべきである。

町長

すでに自主的に給与カットもしており、現在、削減は考えていない。

住民課長

分別ステーション全地区設置に向けて、地区個別に理解を求めると推進したい。

▼24年度介護保険特別会計予算

美馬

高齢者支援サービス向上の重点施策は。

福祉課長

当初予算で、包括的支援事業の人員費を増額した。

地方自治の振興、発展

県町村議長会会長表彰

川端雅夫議員



2月に開催された徳島県町村議長会総会において、川端雅夫前議長が、永年にわたり議会議長として地方自治の振興、発展と適正な議会運営に寄与した功績で、会長表彰を受賞しました。

総額 40億5,000万円

24年度予算は平成11年以来の40億円台となり、内容は以下の通りです。

衛生費



2億9,660万円

総務費



6億4,819万円

議会費



5,283万円

民生費



7億604万円

公債費(借金返済)



4億4,866万円

消防費



6,777万円

農林水産業費



2億4,492万円

災害復旧費



1,776万円

教育費



13億1,101万円

予備費



1,300万円

土木費



1億9,114万円

商工費



5,208万円

特別会計予算

国民健康保険	8億7,634万円	後期高齢者医療	7,824万円
簡易水道	1億6,414万円	勝浦病院	8億1,670万円
住宅新築資金	141万円	物産販売	1,225万円
介護保険	7億3,766万円	集落排水	5,295万円

特別会計とは

一般会計とは別にそれぞれの目的をもって事業と経理管理が行われる会計で、税金以外の収入がある。

選挙管理委員会委員決まる

任期満了に伴う勝浦町選挙管理委員会委員と同補充員の選挙が行われ、次の方々が委員に当選しました。

花房恒夫氏(生名) 中川進夫氏(坂本)
遠藤智美氏(棚野) 野神美枝子氏(沼江)

勝浦町監査委員

任期満了に伴う勝浦町監査委員について

溝田義昭氏(横瀬)

の選任に同意しました。

副町長に

小林 功氏 (54歳) 就任



・徳島市中徳島町
・前徳島県教育委員会生涯学習政策課長

仁木芳宏前副町長の退任により、副町長の選任が提案され、全会一致で同意しました。

産業建設常任委員会

2月27日、28日委員会を開催し、課設置条例などの改正や、補正予算、新年度予算について審議しました。

補正予算

災害時の備蓄倉庫、

発電機を設置

問 備蓄倉庫を275万円の予算で役場敷地内に設置することだが、洪水時に心配はないのか。

答 また、災害時の停電対応で飲料水の確保のため、キンキサインに発電機を163万円で設置する計画だが、だれが運用するのか。

答

備蓄倉庫はかさ上げして設置する。
災害発電機はキンキサインで運用してもらう。



キンキサインに設置された発電機



新年度予算（一般会計）

定住対策、交流事業の促進

問 定住対策として、宅地分譲や新築賃貸住宅の家賃補助が予算化されたが、規模が小さいのではないか。

答 初年度としての取り組みであり、他町村と比較しても小さくはない。

問

人形交流館の改修に1400万円計上されているが、全体の事業費は。

答 井戸端塾が700万円負担し、合計2100万円の事業となる。

簡易水道特別会計

川北簡易水道建設

問 川北簡易水道（今山、黒岩）の建設と沼江簡易水道の改修が計画されているが、全事業予算はどうか。

答 川北簡易水道は総事業費5億700万円、平成27年度完成。沼江簡易水道は約2億円で貯水槽を改修し、平成25年度の完成予定である。

町道認定

「生名道の駅線」43.2mを町道に認定しました。

文教厚生常任委員会

委員会を2月29日と3月1日に開催し、補正予算、条例の一部改正、新年度予算などを審議しました。

中学校卒業まで拡大 乳幼児医療助成

子育て支援の充実策として、24年度から乳児医療費を小学校卒業から中学校卒業まで拡大し、1,554万円が計上された。

ごみ焼却費550万円節減

小松島市に委託しているごみの焼却費は1tあたり45,000円であったが40,000円に契約変更した。これにより新年度予算は550万円が節減できる。

やっと舗装 星谷運動公園通路

星谷運動公園の北側通路は、台風や大雨により浸水し、土砂の流失などの被害が出て毎回修復している。改善策として通路の舗装を要望してきたが、「県の許可が下りない」とそのままになっていたが、昨年、議会からも要望し、新年度に舗装することになった。

ジェネリック薬品

問 町民から勝浦病院でジェネリック薬品を処方してほしいとの声を聞くが、どう対応しているのか。

答 医師に相談し認めた場合、院内の薬事委員会で協議し決定している。



舗装される星谷運動公園の北側通路

山野忠男議員



農業後継者対策

新規就農者への取り組みは

問い合わせはあるが、実績はない（産業建設課長）

問

国は24年度予算で担い手支援に136

億円を閣議決定している。この新規就農制度を活用して担い手の育成をすべきと思うが。

答 産業建設課長

平成21年度に「勝浦担い手育成総合支援協議会」を設立、農地を再生利用する交付金の窓口となっているが、耕作放棄地をもちながら他人に農地を貸す農家が少ない。町内に数件の問い合わせはあるものの、実績には至っていない。

問

町内で遊休地や耕作放棄地が目立つ。

高齡化や後継者不足が主な原因と思われるが、後継者のいない農家と新規就農者を結びつける取り組みの状況は。



「いいききファームズ」の営農講座

答 町長

24年度の支援制度は、国

の方針が具体的に決まれば有効的な活用を検討して行きたい。

また、長年にわたり、「いいききファームズ」で営農講座やみかん栽培を中心とした農業講座を開設し、後継者や担い手育成に努めている。

若者にビジネスチャンス

問

道の駅を活用し、農・商・工連携による若者にビジネスチャンスの環境づくりを推進すべきでは。

答 副町長

昨年開催の軽トラ市

では町内外から30軒の出店があり、県内の青年農業者や町内若手事業者との交流も始まっており、若者のビジネスチャンスや農業後継者に育成も貢献している。

勝中改築工事の進捗状況

問

昨年11月に着工の本体工事の進捗状況は。

また、仮設校舎の学習環境に問題はな

答 産業建設課長

2月末で基礎工事が完了。この時点で進捗率は約13%と多少遅れているが、8月末には本体工事は

答 教育委員会事務局長

完了予定。

仮設校舎は全室にエアコンを設置しており、工事エリアと完全に分離されているので、授業中の騒音などの問題は起きていない。

周辺道路についても、通学時間は工事車両の通行制限やガードマンの配置を行い安全確保に努めている。



8月末に完了予定の本体工事

課再編の目的は

農業、交流、定住の推進を図る（町長）

美馬 友子 議員



問 今回、課の再編が提案されている。住民サービスの向上や重点事業の推進にも期待しているが、再編のメリットは何か。また、職員体制に無理が生じないか。

答 総務税務課長

課の政策立案能力の強化、責任体制の明確化を図り、職員体制は現有勢力でがんばりたい。

答 町長 さまざまな課題において、迅速かつ的確に対応するための組織体制を構築し、農業、交流、定住の推進を図る。

問 新たな課の再編に、住民の意見をどう反映させるのか。

答 総務税務課長

今後は、住民対話を実施する。事業の計画、立案の段階で審議会や協議会を設置し、多様な人材を選任する。

クリーンセンターのこれからは

問 解体に向けての今後の事業計画は。

答 住民課長 財産処分報告書を6月ごろに提出し、24年度中に解体設計書を作成し、地元説明会を行い協力依頼したい。

問 立川地区や周辺関係者の理解と協力で町のごみ処理ができてきた。安全で環境に配慮した工事を。

答 町長 自然に恵まれた所であり、安全かつ環境保全に配慮した工事方法、処理方法でなくてはならない。

どうなっているのか 安心・安全対策

問 役場や病院、福祉施設の地震対策は。

答 町長 耐震診断は、順位付けをして、その対応を考えて行く。災害時の役場の代替施設は農村環境改善センターになっており、

救護所は避難所に設置する。

問 救急患者輸送車の事故対応はどうなっているのか。

また、住民への説明責任は。

答 町長 重大な事故で重く受けとめている。警察から最終的な報告の結果を待ってから今後の対応をして行きたい。

緊急防災減災事業

備蓄倉庫と、発電機を設置

問 備蓄倉庫は役場庁舎に設置する予定であるが、水害時に問題はないのか。

答 総務税務課長

また、発電機の目的は、備蓄倉庫は、役場に設置するのが運用面で効率が良い。

キンキサインから8tの飲料水が提供されるので、停電時の給水に発電機を活用する。



環境に配慮した解体を（立川のクリーンセンター）

河野道雄 議員



現状で良いのか

児童生徒の体力

毎日ランニングを実施（教育長）

問 県の体力テストの結果は小・中学校共に非常に悪い。現状と今後の取り組みは。

答 教育長 生比奈小 学校ではランニングを毎日実施している。横瀬小学校ではドッジボールや長縄跳び、マラソンをしている。勝浦中学校では全生徒に呼びかけて毎朝ランニングやトレーニングを継続的に実施している。

答 教育委員会事務局長 今後の取り組みについては、生比奈小学校は現在の取り組みを続けていく。横瀬小学校では鶴林寺遠足と全校一斉の校内水泳を考えている。

問 毎水曜日にスポーツタイムの日を設けているが、決められた時間なのか。

また、冬には校内ふれあいマラソン大会があるが、ランニングは週何回取り組んでいるのか。

答 教育長 スポーツタイムは月2回、8時15分から8時30

分までの間で実施。「健やかマラソン」については期間は2週間で、毎日15分間行っている。

問 町内の各学校が「阿波っ子すだち（巣立ち）宣言」をしている。その一つに給食を好き嫌いせずにしつかり食べようと言うのがあるが、食材については安全なのか。

答 教育長 町の給食は、地産地消でメニューを作っている。ので安全と認識している。

ガードレール設置を速やかに

問 ガードレール設置要望に対しての実施状況は。

答 産業建設課長

補修が2カ所、工事終了が4カ所で156m。完成予定は1ヶ所で38m。順次努力して危険な箇所解消に努めて行きたい。

答 町長 町民の要望については計

画的改良整備を進めており、安全安心、災害に強い道路改良に対応していきたい。



ガードレールが必要な危険箇所（坂本旭地区）



新年度予算

「選択と集中」はできたか

さらに経費削減に努める(町長)

部 公一 議員



問

新年度予算の各項目の中に、何年も続いて大きな不用額が発生しているにもかかわらず、減額されずに計上されているものがある。

査定時に過去の実績を厳密に精査し、限られた予算の中から原資を生み出して、総合計画を推進するための重点項目に振り分けるべきでないか。

答 町長

予算編成にあたっては、毎年の方針を全職員に周知させており、物品費の一層の削減や、委託料の値引き交渉を積極的に実行しているが、事務的な経費について不用額がある。

今後、さらに削減に努め、重要施策に重点的に予算配分して行く。

防災対策

砂防ダムが必要だ

問

山口県防府市と那智勝浦町の土石流災害で、砂防ダムの下流域では人的被害がなく、砂防ダ

ムは減災に大きな効果がある。

勝浦町には、豪雨による土石流発生危険性が高い箇所が多くあるが、民家が集中する所には砂防ダムの設置が必要でないか。

答 町長

土石流の危険性が高い箇所については、県に砂防ダムの施工を積極的に要望して行く。

問

洪水時に弱者の避難や救助活動のための救命ボートを配備してはどうか。

答 総務税務課長

救命ボートは非常に有効である。管理、運用について消防団と検討して行く。

問

万が一、災害に見舞われた時に、業務を迅速に再開させるためB

答 総務税務課長

災害に備えて住民データのバックアップ対策や各種証明書の発行事務の早期復旧は重要課題なので、早期の行政事務再開ができる体制の確立を検討する。

問

21年度に整備された太陽光式発電外灯の不具合が目立つ。

中学校北側の土手に設置されている10基については、夜の早い時間帯でもほとんどついていない。

通学路であり早急な対策を。

答 総務税務課長

早急に調査し改善策を立てたい。

その他の質問

○新聞を活用した教育を

太陽光発電式外灯 不具合が目立つ



早急に改修が必要な太陽灯



東日本大震災に学ぶ

「命はてんでんこ」

今後の防災に生かしたい(総務税務課長)



被災した防災対策庁舎 (南三陸町)

問

東日本大震災から1年を迎えるが、被災地では復興の目どさえたっていない。

大震災を教訓とした防災対策の取り組みは。

答 総務税務課長

町では宮城県に職員を派遣し、被災地の現状、支援のあり方などを学び、報告会などを開き、今後の防災対策の研修をした。

また、減災事業として備蓄倉庫の設置、非常電源の発電機の設置など計画している。

問

第5回を迎えた町の一斉防災訓練、震災後でありながら避難を中

問

心とした訓練だけで規模も縮小した。新年度は実践的な防災訓練をすべきである。

答 総務税務課長

今後は地震、地すべり対策、洪水対策など想定した訓練を実施したい。

問

今回の震災で、自分の命は自分で守り生き抜く「命はてんでんこ」など学ぶべきことは多いが。

答 総務税務課長

「命はてんでんこ」は、一人ひとりが生きる理想的な避難意識、防災教育である。

今後、必ず起きる南海地震などに防災教育意識として生かしたい。

交流・定住の町づくり

新たに課を設置し推進したい(町長)

問

新年度から新たな課を設置し、交流・定住の町づくりを打ち出しているが、その具体策は。

答 町長

現在の4課を6課とし、産業交流課では農業

答 総務税務課長

を企画総務課を新たに設置し、定住政策として民活による住宅家賃補助制度や宅地分譲事業などを実施する。

危険な箇所にも町道の新設を

緊急性など検討(町長)

問

「安全・安心は道路から」。この観点から星谷地区の県道新浜勝浦線と、町道行司中央線が接する三叉路は見通しが悪く危険であり事故が多発している。町道の支線など新設すべきである。

答 町長

危険箇所として、緊急に整備する必要があるかどうか、慎重に検討したい。



町道新設を (星谷地区)

リフォームに助成を

防災・耐震目的の助成をして行きたい(町長)

森本 守議員



問

県が実施している耐震バリアフリー改修支援事業と、町の耐震改修事業の実績はどうなっているのか。

また、補助金が少ないのではないか。

答 産業建設課長

県の耐震バリアフリー改修事業について、勝浦町内の申し込みはない。勝浦町の耐震改修事業は、22年度

からの繰り越し3戸と23年度2戸である。

県の改修事業補助金に10万円上乘せを予定している。

問

快適な住空間を作り、勝浦町に安心して住み続けられるために、住宅リフォームの助成はできないか。そのことで町内業者の仕事の確保ができるのでは。

答 町長

南海東南海など地震が起ころ予測がされており、基本は防災対策、耐震を目的としたリフォーム事業に助成をして行きたい。

国保税の見直しは

問

国保税の見直しが検討されているが、基金、繰越金を有効に使用すれば値上げしなくてよいのではないか。

答 総務課長

医療費は毎年1割のペースで伸び、1人当たりの保険税は21年度に改正して現在も同額である。

基金1億円、繰越金は20年度末で3億3400万あったが、単年度赤字が続き3年間で約1億円の繰越金が減少している。

また、繰越金は保険事業として脳ドックや色々研修等活用もしている。

県道整備について

問

新浜勝浦線中山工区の用地確保はどうなっているのか。また、交通の障害となっている雑木の枝はらいはどうなっているのか。

答 産業建設課長

おおむね用地所有者に了解を得ているが関係者との協議ができていない。雑木については実施されたと聞いているが、十分に伐採されていない。

問

徳島上那賀線飯谷地区の2車線化工事、用地交渉は進んでいるのか。

答 町長

徳島市との定住自立圏構想があり、連携の事業もなっている。その中で勝浦の事情を話し、協働して県に要望して行く。

■その他の質問

○健康づくりについて
○インフルエンザ対策について



進展のない新浜勝浦線(中山工区)

井出美智子議員



放射性物質

食品の安全対策は

現在、異常はない(教育委員会事務局長)

問 食品に対する放射能規制値が4月から見直される。

成長期の子どもは細胞分裂が活発なため、健康被害を受けやすいと言われていたが、学校給食の安全対策はどうか。

また、民営化された保育所の給食についても同じように安全対策が必要では。

答 教育委員会事務局長

学校給食の食材については児童、生徒の安全確保や保護者の安心が最優先と考えている。

県も県内に流通する食品の放射性物質のモニタリング検査を実施しているが、これまで異常は認められていない。

J A東とくしまでも放射性物質の検査では異常はないと聞いている。

答 町長 保育所は民営化しても、

食材の安全・安心は最大の約束事であるので、関係機関と対応して行く。

再生可能エネルギーの取り組みは

問 大手企業によるメガソーラー事業が実施されようとしている。地域の経済や雇用の面からも地元業者の技術を生かした事業として、谷川や河川を利用した小規模発電で鳥獣害対策をしたらどうか。

また、個人住宅用太陽光発電の助成制度を設けては。

答 産業建設課長

鳥獣害対策の電気柵への取り組みについては、電源の機器も含めた補助対象とできるか前向きに検討する。個人住宅用太陽光発電についても検討する。



谷川を利用した小規模発電(栃木県茂木町)

変わる防災教育に対応を

問 東日本大震災後、防災対策や防災教育の中身が大きく変わってきている。

文科省も「子どもが主体的に判断し、危険を回避する力を身につける」方針を打ち出した。

保育所や小・中学校、学童クラブでの防災訓練はどうなっているのか。

また、子どもたちの命を守るため、全学校に防災倉庫を設置してはどうか。

答 福祉課長 保育所では月1回、学童クラブでは年1回、避難訓練を実施している。

答 教育長 学校の防災訓練に、過去に町で起きた災害の歴史を学び、お年寄りの方々に体験を語ってもらうことなどを取り入れ、新たな方針に対応して行く。

答 町長 各学校に防災倉庫はない

が、食料と毛布などの備蓄をしている。

定住対策

3カ所では少なすぎる

何十戸は難しい (町長)

川端雅夫 議員



問 町の最重要課題として定住促進のために3カ所の宅地分譲すると言いますが、適地適数なのか。また、土地購入者は町内外どちらに重点を置くのか。

答 総務税務課長

地理、面積、生活の利便性を考慮して町有地を活用することにした。

町内、町外をあわせて実施したい。



宅地分譲する町有地 (中山)

答 町長

今、景気も悪いなか何十戸も宅地販売するのは難しい。

問

新築の家賃の一部助成として月額2万円を上限として補助すると言いますが、既設の住宅に住んでいる人に対して補助はしないのか。

答 総務税務課長

家賃の額については、会

社の住宅手当などの助成を控除して、残りの30%を補助したい。今年は10戸を予定している。既設の住宅に対して補助は考えていない。

耕作放棄地対策

園地再生事業に助成を

問

近年、みかん畑の放棄地が目立っている。坂本地区の園地再生事業の取り組み実績は。

また、地域活性化の一つとして、農業振興費の一部を助成してはどうか。

答 産業建設課長

緊急雇用事業として21年から23年の3年間で16カ所2・46ha、事業費は合計1787万円である。

答 町長

みかん園の耕作放棄地は農地保全から考えて、早めに町単補助の制度化をしていかなければならない時期に来ている。

沼江バイパス3期工事

地元も町も

バイパスで

問

2期工事は完成したが、未着工部分について地元との協議はどのようになったのか。

また、県は現道拡幅が金額、工期とも一番であると言っていたが、県の姿勢に変わりはないのか。

答 産業建設課長

地元沼江地区としては、臨時総会で推進委員会を設立し、バイパスを通してもらいたいとの意向である。

答 副町長

県は、大 きな山切に伴う残土処理に多額の経費がかかるバイパス案について否定的な見解であった。

問

町は残土処理のために用地を確保して町民グラウンドを建設してはどうか。

答 町長

町民グラウンドという提案については、意見として聞いておきたい。

麻植秀樹議員



順調に進んでいるのか

中角堤防災復旧工事

中断している（産業建設課長）



4月に再開した中角堤防工事

今回、24年度には新しい制度を作り、民間の活力を利用して住宅を建て家賃の補助を行う。また、町の遊休地を活用し分譲するなど人口減少を抑制し、若者定住の町づくりに取り組んで行きたい。

問

23年度完成予定の災害復旧工事をしていくが、最近工事関係者の姿を見ることがない。予定通り完成するのか。

答 産業建設課長

2月下旬に矢板を提内に打ち込んだが、当初考えていた工法では矢板が入らなく現在、中断している。今、県は国に対して重要変更協議をしているため、年度内の完了は難しいと思われる。県に対して、梅雨時期に入るまでには完了するよう要望するが、不可能な場合

は工事途中の所からの二次災害が起きないように申し入れたい。

若者定住の町づくり

問

町の目標として掲げている人口減少の抑制としての若者定住の町づくりについて、どのような環境を整えて行くのか。

答 町長

若者定住の町づくりについては、以前からさまざま取り組みを行ってきた経緯はある。

あなたの声を議会に！



議会広報第58号でモニターを募集し、4月13日に説明会を開き下記の方々に決まりました。
任期は1年ですが、広報誌をよりよくするため意見や提案をいただくとともに、議会への提言もお願いしたい。

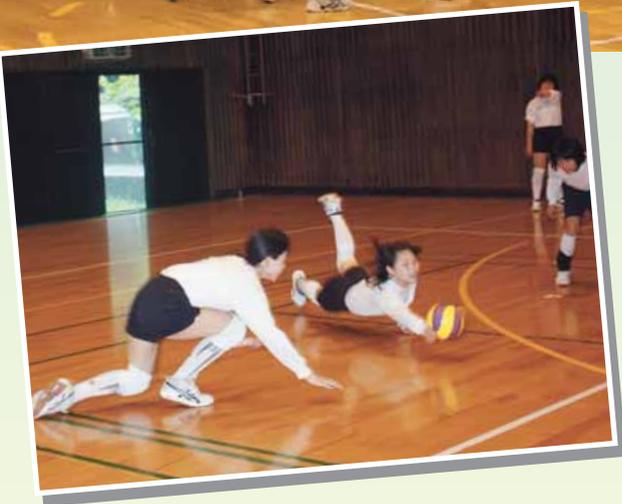
吉岡悦子（掛谷）
西野杏奈（黒岩）
森脇芳男（黒岩）
西尾まどか（星谷）
杉本卓司（生名）
高松由美（棚野）
寺川富茂（中山）
海川昌和（横瀬）
坂口昌昇（与川内）
宮田富子（坂本）



モニター決まる

ぶっついぞ! 勝中クラブ活動

女子バレー部



監督からのチーム紹介

「このチームは、素直でやる気に満ちており、スポンジみたいに吸収してくれるので指導するのが楽しみ」と話す。体育館が使えない時はグラウンドでのランニングで基礎体力を作り、フォーメーションを変えた練習を始めるなど、春の大会に向けて練習を強化。これからが楽しい女子バレー部です。



■平田聡美監督

自らも中学校時代にエースアタッカーとして活躍し、県代表として全国大会に出場するなどの経歴を持つ。指導歴は6年。

●キャプテン

森 也実さん(3年生)

私たちはいつも元気で明るく笑顔の絶えない楽しいチームです。頼りがいのあるキャプテンになりたいと思っています。

●副キャプテン

山平 理恵さん(3年生)

チームを盛り上げて、みんなをまとめアタッカーとして活躍したい。

●セッター

前田 芹奈さん(2年生)

大西 桜花さん(2年生)
もっと強くなりたい。良いトスを上げて一つでも勝ちたい。



編集後記



春を告げるビッグひな祭りに続き、生名口マンの会のさくら祭りも大盛況であった。町の人口を上回る人の来場で、各種イベントも盛り上がり、特に舟下りでは3艘がフル回転しても間に合わない状況だった。

ふたつの祭りに比べ3月定例会は盛り上がりにかけていたように思う。3月議会は1年の計画を審議する大事な定例会だ。勝浦町が進む道しるべは昨年策定された総合計画だが、その中心は「農業・交流・定住の町」の大きな柱を掲げている。人口減少を食い止め、少子高齢化の進む中で持続可能な自治体の構築はこの計画を実現してこそ、その目的に近づく。

しかし、当初予算の中身を見ると具体性や予算措置に不満が残る。理事者は失敗を恐れず、積極的に新しいものに挑戦してほしい。(一司)

